

2014年8月29日掲載

「教えない教育」

ユニセフの調査によると、オランダは子どもの幸福度世界一だという。先日、札幌でオランダの教育現場を視察された方の話を聴いた。教科書は使わなくてもよく、小学校で児童がやりたいことを選んで勉強することに驚いた。

正直、小さな子どもが自分で授業を選択できるのか、すぐに飽きるのではないかと思った。しかし、彼らは自分でやると決め、得意なことを生かしながら責任を持って学習していくそうだ。

では先生は何をしているのかというと、一から教えるのではなく「次は何をやるの?」「どうすればもっとうまくできる?」などと、主に質問をして子どもたちをサポートしているという。これにより、彼らは自分で考える能力を発揮していけるという。

1歳8カ月の私の息子は、自分でフォークやスプーンを持って食事をするようになった。ある日、切ったバナナが器の底に張りつき、なかなかフォークで刺せなかった。いつもなら私が刺して食べさせるのだが、この時はただ見守ってみた。すると息子は、器を斜めにして角度をつけ、バナナを刺すことに成功したのだ。教えなくてもちゃんと食べ方を編み出すことができたのだ。

これまでよかれと思って手を添えていたことが、もしかしたら本人の能力や考え方を奪うことになっていたのかも知れない。自分のコミュニケーションを見つめ直す機会になった。今後も人が本来持っている能力を引き出せる関わり方を続けていきたい。

(毎日新聞より)